

(款) 15民生費 (項) 5社会福祉費 (目) 25老人福祉費

◎高齢者活動の経費

シルバー人材センター支援事業

【 高齢者いきいき課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 就業を希望する高齢者

意図 働くことを通じて社会に貢献し、健康と生きがい及び社会参加を図るため。

効果 高齢者の勤労意欲と健康の増進、生活感の充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域づくりに寄与する。

【事業の内容】

(1) シルバー人材センター支援事業

- ・シルバー人材センターへの運営費(人件費)に対する補助金交付及び運転資金貸付により、法人の円滑な運営を支援した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
60,493	60,493	59,631		862

主な支出内訳

・シルバー人材センター支援事業

シルバー全国連絡協議会負担金

50

県シルバー人材センター協議会負担金

60

シルバー人材センター運営費補助金 会員数 726人(平成20年度末現在)

52,521

シルバー人材センター運転資金貸付金

7,000

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-20 シルバー人材センター支援事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ゼイムス コード及び 個別事業 名	0890 シルバー人材センター支援事業					
主管課	高齢者福祉課(高齢者いきいき課)	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	高齢者の健康と生きがい及び社会参加を図るための就業機会の提供						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	59,631千円	57,654千円	56,853千円			
	(国・県)			720千円			
	(負担金等)	7,000千円	7,000千円	7,000千円			
	(一般財源)	52,631千円	50,654千円	49,133千円			
	人員配置数	0.3人	0.2人	0.4人			
	人 件 費	2,828千円	1,920千円	3,772千円			
事務事業 運営経費	総事業費	62,459千円	59,574千円	60,625千円	H20 対象者数 (シルバー会員数) : 726人		
	市民1人当 りの経費	354円	339円	349円			
	対象者1人 当りの経費	86,032円	84,863円	84,672円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
シルバー人材センター加 入人数	△	目標値	900人	900人	900人	900人	
		実績値	702人	726人			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 団塊世代の就業対策として、就業希望者への情報提供として企業情報、求職等の情報の窓口相談及び情報発信体制の仕組みづくりが求められる。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 平成19年度に試行的に行った「パソコンよろず相談事業」を本格的に稼働させ、就業希望者からの相談窓口の場を広げた。 就業分野の拡大を図り、刃物研ぎの講習等を行った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 就業希望者への情報提供・情報発信体制及び相談窓口体制の、さらなる整備が必要である。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 就業希望者登録制度の仕組みづくりを目指す。 団塊世代会員の加入促進と就業分野の開拓・拡大に努めるよう支援していく。 独自事業の新規開拓に向け支援していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	公益法人であるため、収益をあげることは限界があるが、就業職種の拡大を支援していく。高齢者の就業の場として地域社会の要請に的確に答えていくことが必要であり、将来的には自主事業の拡大と自立運営を目指す。				
担当課長氏名:		高齢者いきいき課長 野田 充博			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	就業機会の提供は、高齢者の生きがいや社会参加を図る上で必要である。今後は法人としての組織のあり方を含め検討していく。				
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子		